



報道発表

令和7年8月1日
関東財務局
甲府財務事務所

山梨県内の地方公共団体に対する 財政融資資金の貸付状況について

令和6年度に山梨県内の地方公共団体へ貸し付けた財政融資資金地方資金の額は、**209**億円となり、前年度と比較して△**4**億円、△**1.9**%となりました。

また、令和6年度末の貸付残高は、**3,575**億円となり、前年度と比較して△**203**億円、△**5.4**%となりました。

財務局では、地方公共団体が学校、病院などの建設や上下水道、廃棄物処理施設などの生活関連施設を整備するときに、財政融資資金を貸し付け、豊かで住み良い社会環境づくりに協力しています。

《お問合せ先》
関東財務局 甲府財務事務所 財務課
TEL：(055)206-0194（直通）

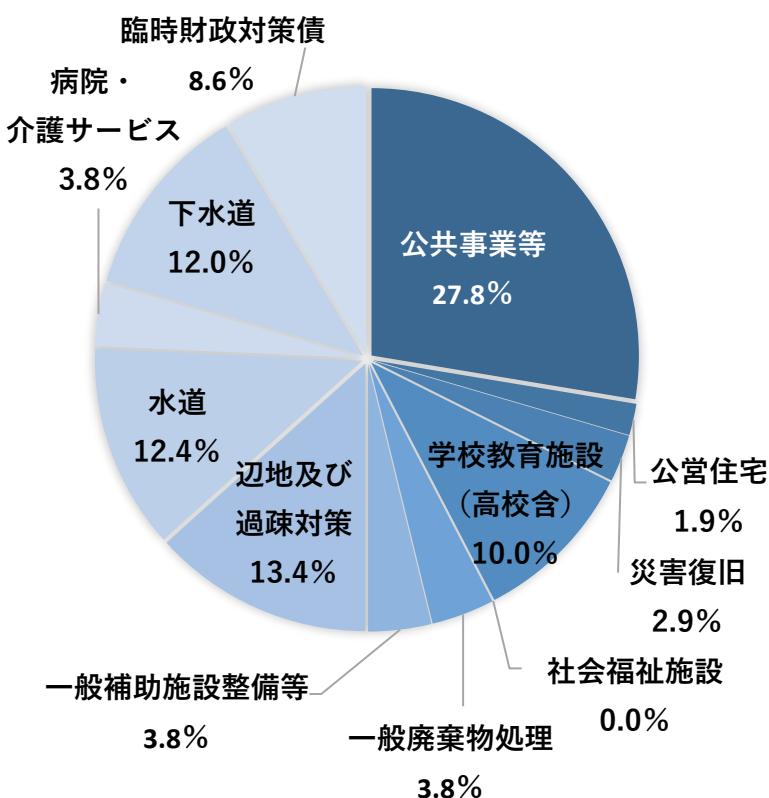
山梨県内の 地方公共団体に対する 貸付額（フロー）

令和6年度 貸付額
209 億円

前年度比 △4 億円
(△1.9%)

臨時財政対策債の減少が要因として挙げられる。

財政融資資金貸付額（事業別）

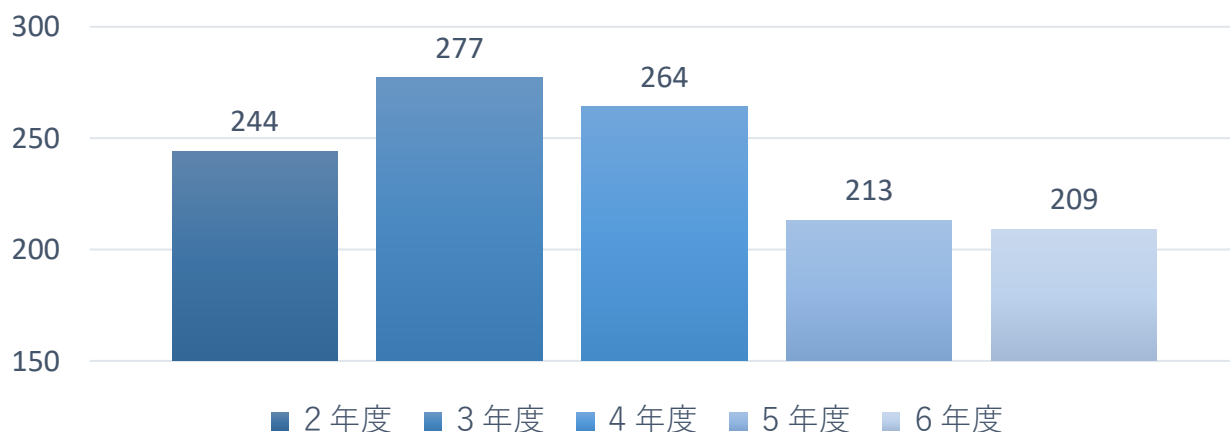


事業区分	貸付額（単位：億円）		
	5年度	6年度	増減
公共事業等	48	58	10
公営住宅	2	4	2
災害復旧	5	6	1
学校教育施設（高校含）	29	21	△8
社会福祉施設	-	0	0
一般廃棄物処理	-	8	8
一般補助施設整備等	3	8	5
辺地及び過疎対策	26	28	2
水道	30	26	△4
病院・介護サービス	6	8	2
下水道	31	25	△6
臨時財政対策債	33	18	△15
減収補てん債	-	-	0
計	213	209	△4

※単位未満四捨五入のため、合計が一致しない場合がある。

貸付額の推移

（単位：億円）



財政融資資金貸付事業例

モバイル建築を活用した住宅整備による移住促進事業

(貸付先：丹波山村、一般補助施設整備等事業)

事業背景

- ・豊かな自然に囲まれる人口約500人の丹波山村は、移住先として人気が高く、村としても移住促進にかかる取組を積極的に実施している。
- ・一方で、増加する移住希望者数に対して、供給できる住宅の数が不足していることから、そのポテンシャルを活かしきれない状況にあった。

事業概要

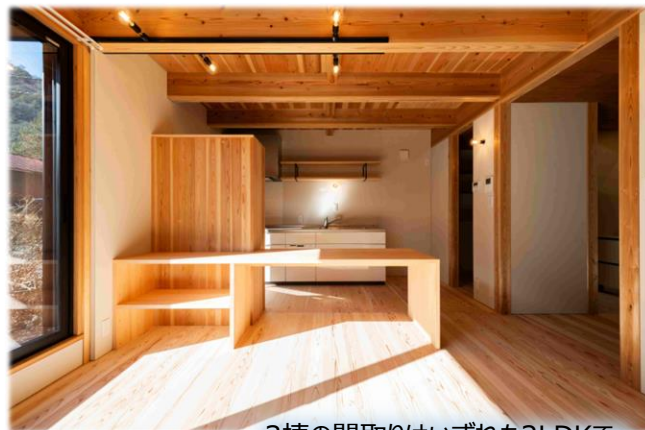
事業費：99百万円 (貸付額：49百万円)

事業期間：令和6年度

- ・賃貸用住宅を短期間に3戸整備することで、不足する住宅供給に対応。
- ・モバイル建築の工法(※)を活用することで、工務店や大工が不在の中山間地域においても高性能な住宅を短期間で効率的に建設できた。
- ・建物の材料は、国産材を使用。外皮には山梨県産の木材も使用し、地産地消の役割を果たす。



屋根には太陽光パネルを備え、環境にも配慮した仕様



3棟の間取りはいずれも2LDKで、子育て中の世帯や、単身者のシェアハウスとしても使用できる

期待される効果

- ・住宅を整備し、移住者の受け入れ体制を強化することで、更なる移住促進を図り、人口減に歯止めをかける。
- ・モバイル建築の活用により、災害に対する社会的備蓄を進めることができる。

※モバイル建築とは

完成した建築物を解体せずに容易に基礎から分離し、ユニット単位でクレーン等で吊り下げ、トラックに積載輸送して迅速に移築することを繰り返すことができる構造を持つ建築物の総称。丹波山村が整備した住宅においては、工場で製造したパネルを現場で組み立てる方式を用いた。気密性・断熱性に優れ、一般の住宅と同等以上の安全性と居住性能、環境性能を有する。能登半島地震の被災地の応急仮設住宅の整備にも採用された。

(写真提供：丹波山村)

山梨県内の 地方公共団体に対する 貸付残高（ストック）

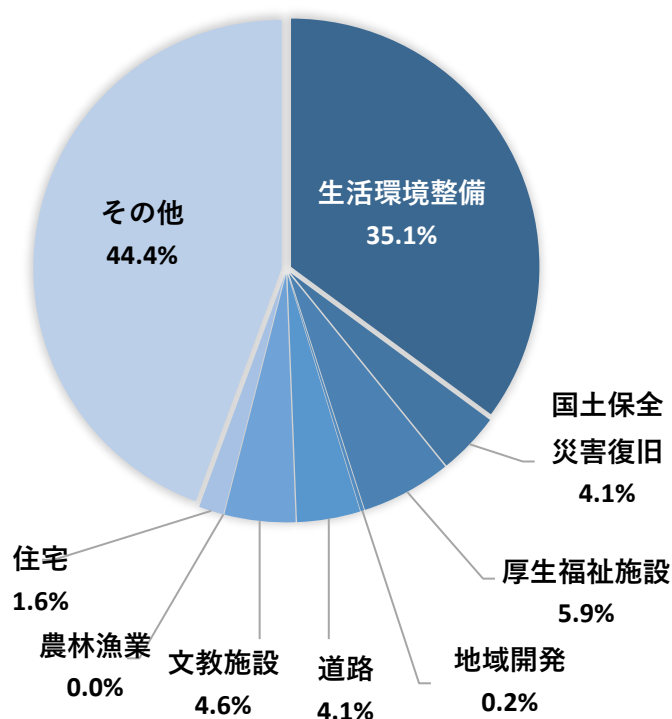
令和6年度末 貸付残高

3,575 億円

前年度比 △**203** 億円
(△**5.4** %)

減少の要因は、約定回収額が新規貸付額を上回ったことによるもの。

財政融資資金貸付残高（用途別）

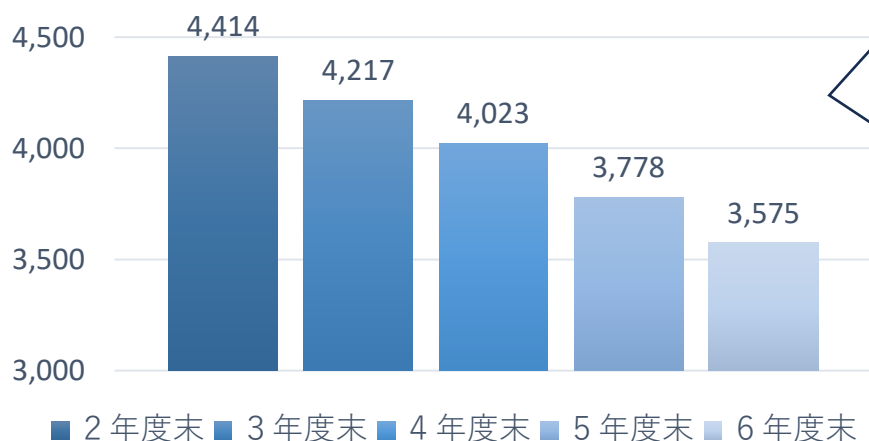


(単位：億円)		
事業区分	貸付残高	備考（主な用途）
生活環境整備	1,255	水道、下水道、一般廃棄物処理
国土保全災害復旧	145	災害復旧、豪雪対策
厚生福祉施設	210	病院、社会福祉施設
地域開発	8	電気、住宅市街地
道路	147	道路
文教施設	165	義務教育施設、高等学校施設
運輸通信	-	港湾、空港
農林漁業	0	農業農村施設
住宅	58	公営住宅
産業・技術	-	工業用水道
その他	1,586	臨時財政対策債等
計	3,575	

※単位未満四捨五入のため、合計が一致しない場合がある。

貸付残高の推移

(単位：億円)



H13年度以降、民間資金を補完するという原則にたち、地方公共団体の資金調達能力と資金使途に着目した貸付を行ってきたことによりH16年度以降逓減している。

財政融資資金活用事業例

市歴史民俗博物館リニューアル事業 富士の杜・巡礼の郷公園整備事業

(貸付先：富士吉田市、一般補助施設整備等事業)

事業背景

- ・本事業の対象地域である市歴史民俗博物館（ふじさんミュージアム）周辺には年間160万人以上が訪れる道の駅を中心とした「リフレふじよしだエリア」等の地域資源が存在している。
- ・市歴史民俗博物館のリニューアルに加え、富士の杜・巡礼の郷公園（ふじさんミュージアムパーク）を整備することで、この地域資源を有効に活かしながら、多くの市民が「憩い」、「学び」、来訪者との交流を図る。

事業概要

【市歴史民俗博物館リニューアル事業】（事業期間：平成26年度）

事業費：516百万円（貸付額：231.5百万円）

- ・富士山信仰に関する資料の展示や富士吉田市の歴史・民族・産業を紹介する博物館。増築・改築工事により、利用者のニーズに合わせた展示の改善や老朽化・バリアフリー対策を行う。

【富士の杜・巡礼の郷公園整備事業】（事業期間：平成28年度～令和5年度）

総事業費：1,143.3百万円

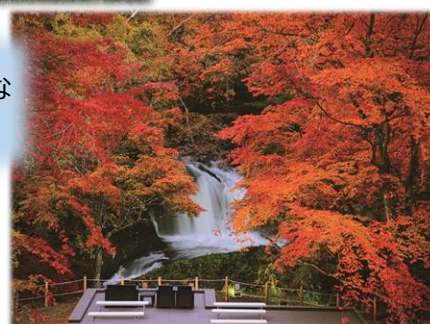
（うち財政融資資金対象事業費353.9百万円、貸付額：77.4百万円）

- ・市民及び来訪者の交流拠点となる公園を整備。公園内には、市歴史民俗博物館や国の重要文化財「小佐野家住宅（御師住宅）」の模造復元住宅をリノベーションした古民家カフェ「KONOHANA」といった施設があるほか、観光スポットである「鐘山の滝」を鑑賞できるデッキ等を整備。



【市歴史民俗博物館】
令和5年4月に迫力ある映像で富士山の絶景を体感できる新展示「ふじさんVRシアター」がオープン

【鐘山の滝】
四季折々の自然が織りなす絶景を楽しめる穴場スポット



事業効果

- ・富士の杜・巡礼の郷公園は、令和5年4月の開園以来、年間約20万人の入込客数を記録しており、地域の観光資源、交流拠点としての役割を果たしている。
- ・上記には、市歴史民俗博物館の利用者（年間約6万人）も含まれている。

(写真提供：富士吉田市)

関東財務局 甲府財務事務所

(注)単位未満四捨五入のため、合計が一致しない場合がある。

(注)単位未満四捨五入のため、合計が一致しない場合がある。

管内地方公共団体別の財政融資資金地方資金貸付残高(令和7年3月末現在)

関東財務局 甲府財務事務所

[illegible]

(注)単位未満四捨五入のため、合計が一致しない場合がある。